

令和5年度



赤羽根の里だより



茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和5年11月6日(月)

校長 高橋 励

Dear Student(*^_^*)

ユニバーサルデザインって？

…授業中の校内を、タブレットを持った2年生が
ちらちらと歩き回っている姿に何度か出会いました。
「何しているの？」とたずねると「ユニバーサルデザイン
を探しています」という答え。どうやら英語の授業の
課題のようです。“昭和に建てられた校舎でユニバー
サルデザインなんてみつかるとは？”と思いつつ、
「ところで、ユニバーサルデザインって何？」とたずね
てみると、意外にもなんとなくあやふやな回答が…。

そんなことがあったので“ユニバーサルデザインと
は？”とWEB検索してみると、あちらこちらに「ユニバ
ーサルデザインの7原則」という文字が。フリー百科
事典『ウィキペディア(Wikipedia)』の解説で紹介
すると、

① どんな人でも公平に使えること。

(Equitable use / 公平な利用)

② 使う上での柔軟性があること。

(Flexibility in use / 利用における柔軟性)

③ 使い方が簡単で自明であること。

(Simple and intuitive / 単純で直感的な利用)

④ 必要な情報がすぐに分かること。

(Perceptible information / 認知できる情報)

⑤ 簡単なミスが危険につながらないこと。

(tolerance for error / うっかりミスの許容)

⑥ 身体への過度な負担を必要としないこと。

(Low physical effort / 少ない身体的な努力)

⑦ 利用のための十分な大きさと空間が

確保されていること。

(Size and space for approach and use /

接近や利用のためのサイズと空間)

とありました。

また、「最初から誰にとっても使いやすいデザイン」という点が「使いにくさを後から取り除く(=バリアフリー)」との違いである、とも書かれていました。

実は、皆さんが入学するより以前から、赤羽根中
学校では「安心して学ぶことのできる環境づくり」と
して「ユニバーサルデザインの実践」に取り組んでき
ているのですが、どこのことなのか心あたりはありませ
んか？もし、あまりにも当たり前になっている(まるで空
気のようなカンジ?) せいで気づかれないのであれば、
それはユニバーサルデザインとしては大成功なのかも
しれませんね。

だれでもが使いやすい、だれでもが過ごしやすい、
だれでもが学びやすい……。わたしたちが何かをし
ようと考えるときに、できる限り幅広い人への思いや
りをはたかせることができれば、そこに生まれてくる
モノは、より“ユニバーサルなデザイン”になっていく
はず。

ところで、あなたから見わたし(=校長)は“ユニ
バーサルなデザイン”でしょうか？(“人を道具として
扱いなさい”という意味ではありません。あなたが本
当にわたしを必要とするときに頼りにしやすそうか、と
いうことです)もしかすると、いくつかのバリアを取り除
く“バリアフリー”からはじめなければならないかもしれ
ないですね。もし、バリアを感じたら、わたしが“ユニ
バーサルなデザイン”に近づくためにも「こうしてもら
えたら助かります」と教えてください。

ところで、あなた自身は“ユニバーサルなデザイン”
ですか？(*^^*)1年生は明日、福祉体験学習。そし
て2年生は明後日職場体験学習ですね。あなたにたく
さんの気づきがあることを願っています。